

時事新報

第千二百七十六號

卷二

內
譜

卷之三

洋學の始めて我國に入るや之を學ぶ者の心は好奇に、
り唯其珍らしきと觀ばんとするまでなりしが之と學ぶ

洋學の始めて我國に入るや之を學ぶ者の心は好奇により唯其珍らしさと窺はんとするまでなりしが之と學ぶと漸く深くして漸く其味と知り有用の實學、理又かくて之と學ぶる可らざる思想を生じ尋で其學の世に流行るに及んで洋學は人間處世に必要に左て衣食の資として之と學ばざる可らざるに至りたり我蓋今道れ我國より行ひるゝ有様と見るに其進歩の順序略ば學の流行よ類するもはあるが如し明治五年東京横濱間に十八英里の鐵道成る、其成るや鐵道の必要を感玄れど故に非モ西洋諸國々鐵道と云ふものあり甚だ奇なり試よ之を敷設玄たゞば面白うらんとの趣向にて大坂西京間の鐵道開業なり此開業も蓋し事の緊急必はい好奇心に出でたるものなり同十年神戸大坂間並に出了るゝ非す東京横濱間の奇と奇として其奇に微たるゝ過ぎ也斯くて一二年を過ぐる間に鐵道の便利は漸く實際み顯はれ又學者の理論ふ發玄明治十二年西京大津間十英里の鐵道成りろは後鐵道の大に敷設せざる可らざるの理と悟りて各地に鐵道工事を見るゝ至りて鐵道工事の斯く進歩する其際に交通の便利は其線路が鐵道工事の斯く進歩する其際に交通の便利は其線路に沿ふて隨處の停車場は貨物運送の集點と爲り之がへて鐵道近傍更に一繁華區と生ずるが如きなり或ひ交通不便の爲め從來北方の物産と仰ざしきが鐵道の個以て俄々南方の品物と需要するが如きあり鐵道の敷設方向如何ふ由て地方盛衰は運一あらず其運を挽回せんとするふは是非とも鐵道と其地方に敷設せざる可らざるに信越鐵道の敷設と急ひ其結果として遂に今日の如く江津より高田を經て信州に入り中山道に幹線に合するの鐵道と官設するの運びに至れり又曩きに乾賀よりの横川まで延長するに及んで東京市場の魚類往々信州路に入るとと爲り北越の漁民は其得意場を侵領せらるゝの趣ありて彼是鐵道の必要と感せしにや越後人の太長演と經て大垣に達する鐵道の成るや未だ幾ならず半田名古屋間の線路を敷設するに計畫あり追て之と延長玄て中山道線路と連絡せんとするに摸様ありしらずに日市間に至急官設鐵道と敷設せるよと政府と政府と爲り忽ち撤退と來す可しイヤ當初約束の通り大垣四日市間に至急官設鐵道と敷設せるよと政府と政府と爲り忽ち撤退と來す可しイヤ當初約束の通り大垣四日市間に至急官設鐵道と敷設せるよと政府と政府と爲り忽ち撤退と來す可しイヤ當初約束の通り大垣四日市間に至急官設鐵道と敷設せるよと政府と政府と爲り忽ち撤退と來す可しイヤ當初約束の通り大垣四日市間に至急官設鐵道と敷設せるよと政府と政府と爲り忽ち撤退と來す可しイヤ當初約束の通り大垣四

透れて、魚介の供給を鹿島郡一帯の漁場より仰ぎしに令
と東京より新鮮なる魚類の來るありて水戸近海の海
物を要せざるの勢とありたれば今に及んで小山・水戸間
の鉄道を開かざれば水戸の遂々草薙より埋まるは鏡に掛
けて見る如しとして此地方の人民は如何にもして早く
鉄道の起らんことを希望しこと止まずと云ふ今日の事情
にして此必要物なけれ其地方の差微を來して人兵飢渴
を競争しても常々敗北の數を免るゝ能はざる其有様
用をもとせざるとは恰かも銃砲を携ふると弓矢と執る
との差あり鉄道を利用せる能いざるものは凡工商専事
に迫るの急務が爲めあり今日の世の中に在て鉄道と利
用をもとせざるとは恰かも銃砲を携ふると弓矢と執る
弓矢を以て銃砲よ敵するが如し三尺の童子も尙其利不
利と辨可きが故ふ今後各地方にて追々鉄道を延長す
るに隨ひ到る處より前陳の如き場合を生む鉄道ます
延長すれば其敷設論はます／＼騒々しきとならん論の
騒々しきのみならず或は無鉄道にて不利と堪へずて民
設鉄道と請願する者も多からん回顧すれば明治十三年
國會開設の請願とて地方志者が政府に向て請願する
所なり其熱心と當時甚ざ熾なり乞と雖ども必竟國會
開設ふ伴人の利益の未來間接よ渉る所わるが故に尙未
づ盡さる所ありしるんふれに反し鉄道敷設のこと
は或る地方の盛衰に關し其地方人民より取りては目前直
接衣食の道にも關係あり一日も忽みそ可らざるもの
なれど我輩の豫想を以てそれを今後鉄道敷設と就き地
方有志者は間に非常の熱心と喚起するとあるべく其熱
度は彼の國會請願に比に非ざる可しと信するなり
斯かる豫想ある今日、我政府は如何なる方略を以て地
方の人心を安撫せんと欲するか我輩自ら所見あり試
みに之を次號ふ陳せん

番六十三枚自二八七番至三二六番四十枚自四番至四六二番五十九枚自六四番至六七〇番二十七枚自七五九番至七六七番九枚自八二七番至八八五番五十九枚自九四五番至九七五番十一枚自一二四五番至一二五三番九枚二十五圓四百十九枚此金一萬四百七十圓印五圓

自一〇一番至二二〇番百二十枚自三二二番至三五一三十枚自五六六番至六四四番七十九枚自七三七番至七六九番三十三枚自七九九番至八六六番六十八枚自八九七番至九一〇番十四枚自九八二番至一〇四三番六十二枚自一四九四番至一五〇六番十三枚有告示

明治十九年五月十四日大藏大臣伯爵松方正義

○交通遮断京都府愛宕郡白川村は虎列刺蔓延し病勢頗る猖獗あると以て該村内流行地に限り去る八日より人民の交通を遮断す(京都府報告)

○虎列刺患者虎列刺患者之京都府去月三日より同七日迄一人死亡七人大阪府去る九日三十五人死亡二十三人、兵庫縣同八日より十日迄十四人死亡五人、滋賀縣同十日三人、德島縣同十日より十二日迄六人あり(京都府外一府三縣報告)

○日本郵船會社命令書中の改正昨十三日遞信省ニ於テ日本郵船會社の請願を許可し昨年九月二十九日同社へ下付せし命令書第六條中其會社は本社と東京にとどまるを横濱よと改正せり(遞信省報告)

○元山港輸入穀免稅朝鮮政府ハ飢民艱食患を紓めんタため榜に其の各開港場へ米穀輸入稅を免せんとする由は前日既に報告しるか愈本港通商事務部顯夷より四月十四日附(朝鮮曆二月十一日)と以て輸入米穀は朝鮮曆三月より五月まで至る三月間總て之を免稅すべき旨同政府の訓文を奉考たる趣と通知夫ヨリ(本年四月十六日附在元山領事館報告)(以上五件本年五月十四日官報)

雜報

○府下夏物の概況夏物は例年四月中旬より五月へかけ田舎客の出廻りて仕入をあすが故に吳服太物店の甚だ忙ばしきことなるが本年は右出廻り客はあさが爲先に何れの店も淋しき趣い過日の紙上に記載せざが今聞く所に據れば田舎客は此兩三日前より漸く出廻りたきと免角買入の勘合せとならず安物のとに眼と付々上州柄生織白地浴衣の圓に四反内外れもが最も望人多くして上等品は其價を問ふるものもなく中又最も望人の勘合せは相の男物あり又舶來品も都て安物が捌け行ゝ様子なりと云へり

○西陣織物の販路去六日京都色染織物結縫業者カ該共進會場に開き居る業談會に於て西陣織物の販路を據張する方法如何といふ問題に對し談話と始むる時しもあれ傍聴席より居り立或人會長に向ひて發言を許されよと乞ひ會長の許可を得て種々其意見と陳述せし題なるが其意見の要略は元來西陣織物は往時第一雲上人第二諸大名第三神官僧侶等の多く用ふるものありしる維新後第一の雲上人は政治に參入由りて錦織の裝束等を用ふるを止め大禮服の制も皆海外各國の風となり第二の諸大名も亦時勢よりて今日の華族とあ

官

報

○第四十一號
萬國郵便聯合條約里斯本府追加書第九條乙ニ據リ「セルヴザニア」國ト別配達郵便ヲ交換ス
右告示ス
明治十九年五月十四日 遣信大臣 櫻本武揚
○第四十三號
明治十一年發行舊神官配當祿公債證書發行年限滿期ニ付來ル六月中左記ノ種類記載番號證書ノ元金償還スヘクニ付左ノ通り心得ヘン
一該公債證書運渡賈渡シノ換印ハ當五月二十五日以降停止ス
一該公債證書ハ利札附屬ノ儘元利金ヲ支拂フヘシ尤利子ハ月割ヲ以明治十九年一月ヨリ同六月マテノ分ナ拂渡スヘシ
但若シ利札ヲ截断シ所持スル者ハ本證書ヘ貼付シ管廳ヘ差出スヘシ
該公債證書及ヒ已ニ截断シタル利札ヲ亡失タル者アラヘ其管轄廳ヘ申出ツヘシ
一金九萬四千八百二十五圓
此證書數千四百四十一枚
發行額

と兔角買入の勘定はそなはず安物のとに眼と付々上州桐生織白地浴衣の間に四反内外れもりが最も望人多くして上等品は其價を問ふるものもなく中よも最も望人の勘定は絹の男物あり又舶來品も都て安物が捌け行く様子なりと云へり

○西陣織物の販路　去六日京都色染織物結縫業者か該共進會場に開き居る集談會に於て西陣織物の販路を據張する方法如何といふ問題に對し談話と始むる時しもあれ傍聴席より居り走或人會長に向ひて發言を許されよと乞ひ頃の會長の許可を得て纏々其意見を陳す所せし趣なるが其意見の要略は元來西陣織物は往時第一雲上人第一諸大名第三神官僧侶等の多く用ふるものありしき維新後第一の雲上人は政治は變遷よりて錦織の裝束等を用ふるを止め大禮服の制も皆海外各國の風となり第二の諸大名も亦時勢よりて今日の華族とあ

是非お先生と
そぞら左の
佐渡昌城、
豊田滋、竹
長川邊善
二(以上縣
直己(師範
師範學校
籌、山田誠
石澤幸得、
重、福田善
重、宮田悌
關恕、巨村
雄、矢田鞆
俊徳、西郷
春(以上數
右の内閣
川興、柳瀬
大ふ此事に